



Title	懐徳 第7号 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1929, 7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88805
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

は日本の臺所だ、いや東洋經濟の中樞だと大層な鼻息であるが、なんだかあはたどしい落付かぬところでもある。損徳の算盤玉も大事であるが、人間の魂の修養も棄て置けぬは、理屈ぬきの理屈である。坊さんのお念佛も有難い、牧師さんのお説教も結構であるが、懷徳堂の門をくゞつて、聖經賢傳の講義を聽く味は、また格別である。浩然の氣は自ら養はれ大丈夫の魂は自ら磨かれる。新知識を獲て見聞を廣めることも出来るなど、手前味噌はならべずとも、會員諸君は千萬御承知のことであらうが、世間に所謂御宣傳が願ひたひものだ。西村永田松山三先生の時代を種まき培ふ創建の時代だとすれば、小倉財津吉田三先生の時代は、花を咲かせ實を結ばすべき次の時代だといへる。あだかもよし、此の時代の劈頭に辱くも侍従の御差遣を拜し奉る。此の懷徳堂を護りたてゝ、意義あらしめ光輝あらしめることは、我々の義務でもあり誇りでもあり、聖恩の萬分の一に報い奉る所以でもある。この上とも會員諸君の御援助を希望する。

昭和四年十月十日印刷
昭和四年十月十二日發行

【非賣品】

大阪市港區八幡屋中通三丁目九七

發行兼編輯人 小 沼 量 平

大阪市東區島町二丁目一〇

印刷人 植 田 政 藏

大阪市東區島町二丁目一〇

印刷所 植 田 印 刷 所

大阪市東區豐後町懷徳堂記念會内

發行所 懷徳堂友會

電話東三五五番